

第壹百壹回 豊田まちと交通勉強会 (Web配信)

2020/05/20

高齢者にMMは効くのか？

ICカード乗車券による乗車体験 の効果と「終活MM」の課題

公益財団法人 豊田都市交通研究所
研究部次長・主幹研究員 山崎 基浩

MM (Mobility Management) とは

【日本モビリティ・マネジメント会議の解説】

- モビリティ・マネジメント(Mobility Management, 略称MM)とは、渋滞や環境、あるいは個人の健康等の問題に配慮して、過度に自動車に頼る状態から公共交通や自転車などを『かしこく』使う方向へと自発的に転換することを促す、一般の人々や様々な組織・地域を対象としたコミュニケーションを中心とした持続的な一連の取り組みのことを意味します。
- 具体的には、コミュニケーション施策を中心として、様々な運用施策、システムの導入や改善、それらの実施主体の組織の改変や新たな組織の創出などを実施しつつ、持続的に展開していく一連の取り組みを意味します。

出典：JCOMMホームページ (<https://www.jcomm.or.jp/mm/>)

研究の背景と目的

- 豊田市では基幹バス(とよたおいでんバス)にIC乗車券を導入(利用率は平成30年度で68.3%)
- 更なる普及が利用促進に繋がることに期待

- 地域公共交通の利用促進において高齢者の「おでかけ」創出に着目(H30年度 TTRI自主研究)
- 乗車体験等でバスの「乗り方」を知ることが利用促進に繋がる(豊田市と高専が継続的に実施)

【視点】

- IC乗車券の利用方法を知ってもらう
- 地域バス(区域運行デマンド)の予約・利用方法を知ってもらう
- おでかけ目的を提供し、バスでの移動に「楽しい経験」を重ねてもらう
- 高齢者の地域コミュニティ活動に取り込み「クチコミ」波及効果に期待

【実施内容】

豊田市交通政策課からの委託により、
豊田高専(野田教授・山岡教授)と共同で研究実施

- 主に高齢者を対象に基幹バス・地域バスの乗車会を実施
- 参加謝礼としてIC乗車券(manaca)を提供し利用方法を説明
- アンケート調査(当日＋事後)およびヒアリング(当日)により効果検証
- 地域バス予約窓口担当者ヒアリング結果も含めて課題整理

対象地域：下山地域（旧下山村）

- 平成17年度の合併で豊田市に編入
- 合併前は岡崎市方面へのバスのみで豊田市への路線バスは無かった

【位置図】

【地域特性】					
下山地域は、豊田市南東部に位置し、南部に岡崎市と新城市、北東部に設楽町と隣接している。豊田市と合併する以前、岡崎市と交流が強く、合併後も地域住民の生活圏に色濃く残っている。面積の8割を森林が占めており、広大な自然を有している。					
地域内には7つの自治区があり、施設が集中して建ち並んでいる大沼自治区やダム湖100選に選ばれた三河湖などの観光資源を有する羽布自治区など、自治区ごとに特色が大きく異なる。					
人口減少や高齢化が進む中で、平成24年よりトヨタ自動車株式会社の研究開発施設のための用地造成工事を着工。施設の完成による地域の大きな変化に、期待を寄せる声も挙がっている。					
面積	114.18 km ²	(	12.4%	) [市 918.32 km ²]	
人口密度	40 人/km ²	(	6.6%	) [市 462 人/km ²]	
	4,526 人	(	1.1%	) [市 424,500 人]	
人口	男性	2,253 人	(	1.0%	) [市 221,768 人]
	女性	2,273 人	(	1.1%	) [市 202,732 人]
うち外国人人口	57 人	(	0.3%	) [市 16,327 人]	
世帯数	1,665 世帯	(	0.9%	) [市 178,410 世帯]	
平均年齢	50.50 歳	(	7.8歳	) [市 42.73 歳]	

■都市基盤				
【主要道路】				
国道3路線（301号、420号、473号）があるほか、主要地方道1路線、一般県道7路線などがある。				
【公共交通】				
とよおいでんバス（下山・豊田線）・名鉄バス（大沼線）・下山地域バス（しもやまバス）・足助地域バス（あいま〜る）				
【公共施設】				
大学(0)、高校(0)、中学校(1)、小学校(3)、こども園等(2)、交番・駐在所(3)、消防署等(1)				
下山交流館、下山保健福祉センターまどいの丘、下山基幹集落センター、下山憩の家、香恋の館、手づくり工房 山遊里、三河湖観光センター、昆虫の森、下山西部プール、下山トレーニングセンター、下山運動場、総合射撃場（県）、三河湖園地、羽布ダム				
【医療機関】				
病院(0)：-				
診療(2)：高橋医院、下山クリニック				
歯科(1)：荻野歯科医院				
■地域資源				
【観光資源】				
三河湖、三河湖園地、羽布ダム、三河高原、保険の七滝、根池、野原川、香恋の館、手づくり工房 山遊里、下山パークパーク				
【特産品】				
五平餅、しし鍋、へぼ料理、鮎・鱒・アマゴ料理、米（ミネアサヒ）、お茶、しいたけ、手づくりこんにゃく、シクラメン・シンビジウム、露地菊				
【イベント】				
鯉恋まつり（4月）、三河湖ウォークラリー（6月）、香恋の里夏まつり（8月）、よってらっ彩みてらっ祭（10月）、三河湖マラソン（3月）				

出典：豊田市地域情報カルテ

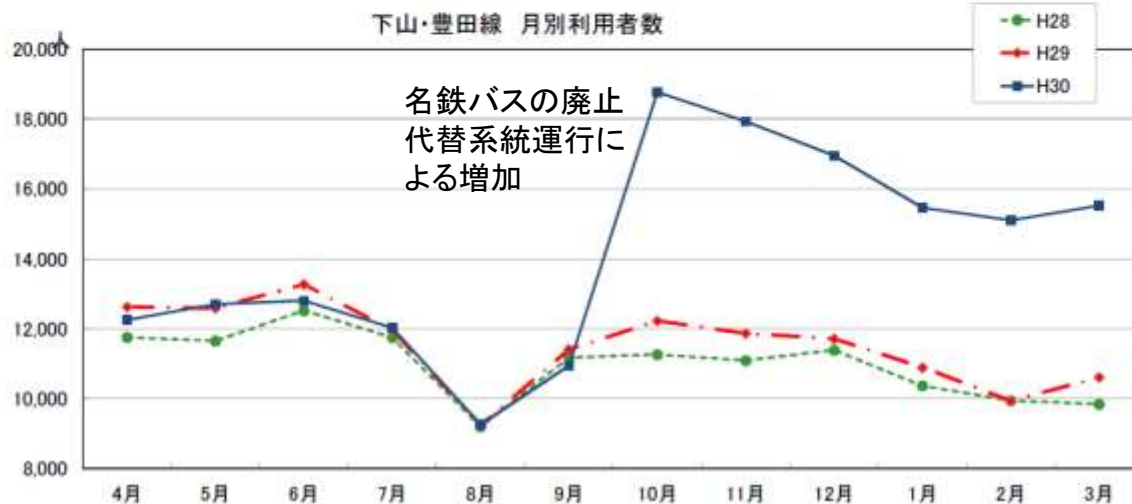
対象路線：とよたおいでんバス 下山・豊田線

- 豊田市駅と下山(大沼)を結ぶ基幹バス路線
(一部、名鉄の廃止路線を補う形で枝分かれし中垣内行きの系統あり)
- 6時台～22時台運行、平日25(+11)便、土休日20(+8)便 ※()内は中垣内
行きの便数

⑨下山・豊田線

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H20	10,149	10,745	11,408	11,244	8,333	11,154	11,797	10,457	10,551	9,970	9,266	10,918	125,992
H21	11,530	10,820	11,808	11,404	7,700	10,329	10,981	9,998	10,463	9,877	9,363	9,381	123,654
H22	12,260	11,415	12,406	11,985	8,392	11,203	11,537	11,442	11,013	11,152	10,108	10,322	133,235
H23	12,427	12,378	13,294	12,534	9,526	11,597	12,192	11,943	12,113	10,810	10,810	10,768	140,392
H24	12,948	13,832	13,667	13,195	9,595	12,293	13,849	13,044	12,111	11,843	10,663	10,899	147,939
H25	12,750	13,725	13,272	13,596	9,967	12,002	12,904	12,348	12,097	11,664	10,759	10,827	145,911
H26	12,226	12,905	12,953	13,433	8,904	12,137	12,466	11,517	11,946	11,327	10,296	10,261	140,371
H27	12,540	11,313	12,894	12,472	8,943	11,531	11,937	11,358	11,139	10,682	10,023	9,809	134,641
H28	11,757	11,653	12,520	11,752	9,202	11,178	11,263	11,092	11,390	10,371	9,949	9,845	131,972
H29	12,624	12,593	13,269	11,971	9,244	11,408	12,230	11,865	11,713	10,894	9,936	10,614	138,361
H30	12,255	12,702	12,804	12,033	9,266	10,945	18,764	17,931	16,950	15,463	15,102	15,521	169,736

(人)



出典：豊田市公共交通会議
(令和元年度第1回)資料

対象路線：
下山地域バス「しもやまバス」

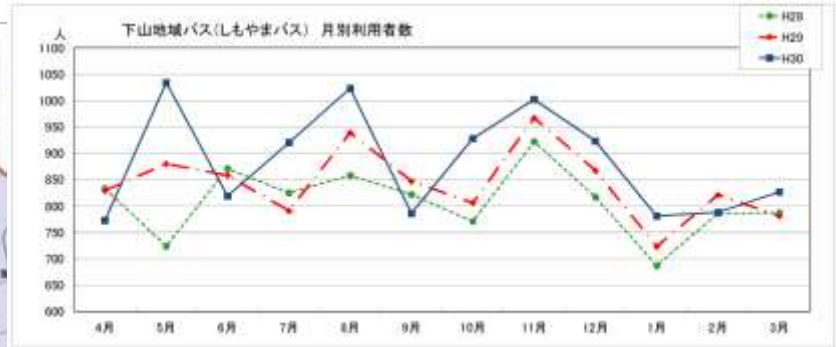
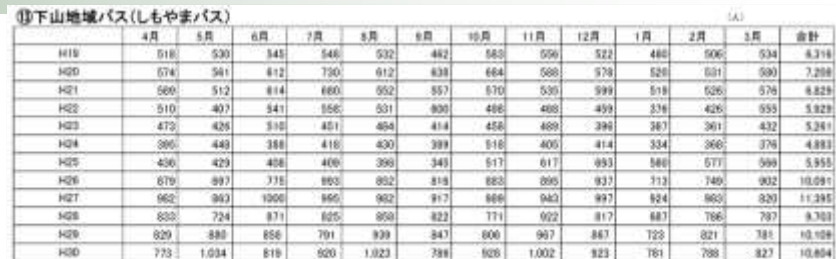
平成29年
3月
発行



しもやま バス

電話で予約!!
バス停にお迎え!!

運行 時間	平日 午前6時～午後8時
	(※休日) 土・日・祝日・年末年始(12月29日～1月3日)
運賃	大人(中学生以上) 200円
	小学生・障がい者 100円
	※ 乗車 学 無料
利用 方法	電話で「予約」してください。 予約はご利用の1週間前までに必要となります。
	予約先: TEL (0565) 91-1200
	予約 平日：午前8時～午後7時 休日：8時30分～午後5時(夜間予約は専用ダイヤルへ) (予約時に伝えること) ①乗車/②降車/③乗車 ④利用したい日と時刻 ⑤利用・人数・電話番号



出典：豊田市公共交通会議
(令和元年度第1回)資料

しもやまバス バスマップ°

地域のコミュニティ活動と連携した展開

- 下山地域では24のサロンが活動中(月1~2回の開催)
- 主に高齢者(女性)の集まり
- 地域住民の「クチコミ」による波及効果を期待し、社会福祉協議会を通じて各サロンに体験乗車会を告知

8月号 No351

ぼらんていあ
だより

※今月の花※
フーゲンベリア

(情熱、魅力、あたたかみ見えない)



ボランティアをするあなたは
☆魅力的☆

ぼらんて君

地域ふれあいサロンの様子☆



「地域ふれあいサロン」ってなに？

現在、豊田市内で「地域ふれあいサロン」が301か所で行われています。今回は、詳しく紹介させていただきます。

地域ふれあいサロンって？

子どもから高齢者までいきいき元気に暮らせるように、近隣住民の「ふれあい」の場づくりによる近所支え合いの事業です。

サロンによって内容はさまざまで、主には体操やゲーム、物づくり、脳活性化トレーニング等の活動をされています。

目的や目指すものは？

自治区が主体となって、生きがいづくりや健康づくり、ふれあい活動などを行うことによって地域住民が住み慣れた地域でいつまでも健やかに安心して暮らせることを目的としています。

実施するのはだれ？

実施するのは自治区と区民のみなさんです。

参加者はだれ？

自治区にお住まいのみなさん。高齢者をはじめ、年齢や性別を問わず、どなたでも参加できます。

こんな効果があります

1. 仲間づくり、人と人との絆が広がります

様々な世代の人々やボランティアなど、多くの人と顔を合わせ、ふれあうことを通して、人と人との輪が広がります。

2. 健康に対する意識が高まります

地域包括支援センターや市地域保健課の方などからのアドバイスで、参加者自身の健康に対する意識も高まります。

3. 情報提供、情報交換の場になります

福祉や介護サービスの情報など、参加者の日常生活に必要な様々な情報を提供、交換することができます。

(福祉サービス、悪質商法、年金、防災など)

4. 地域における「見守り・支えあい」のネットワークができます

住民自らが参加することにより、互いに助け合い、支え合うことの大切さが芽生え、地域における「見守り・支え合い」のネットワークができます。

5. 笑顔がいっぱい、そして介護予防につながります

ものづくりや遊び、ゲームや軽体操など様々な活動を通して楽しい時間を過ごしてください。「ふれあいの場」に出かけ、人と出会い、談笑することによって、認知症等の要因となる閉じこもりの防止につながります。

社会福祉協議会へご連絡ください！

サロンに参加希望の方や、「私の地区でもサロンをやりたい！」と希望される方は、ぜひお問合せください。

◎問合せ 豊田市社会福祉協議会 地域福祉課(4ページに記載)



地区名	サロン数	地区名	サロン数	地区名	サロン数
崇化館	13	竜神	9	松平	13
梅坪台	3	末野原	9	藤岡	24
浄水	4	若林	5	藤岡南	11
朝日丘	2	前林	8	小原	12
逢妻	12	若園	4	足助	22
豊南	10	猿投台	7	下山	24
高橋	14	井郷	6	旭	24
美里	8	石野	8	稲武	12
益富	7	猿投	7		
上郷	11	保見	13	合計	302

出典：豊田市社会福祉協議会

「ぼらんていあだより」平成29年8月号

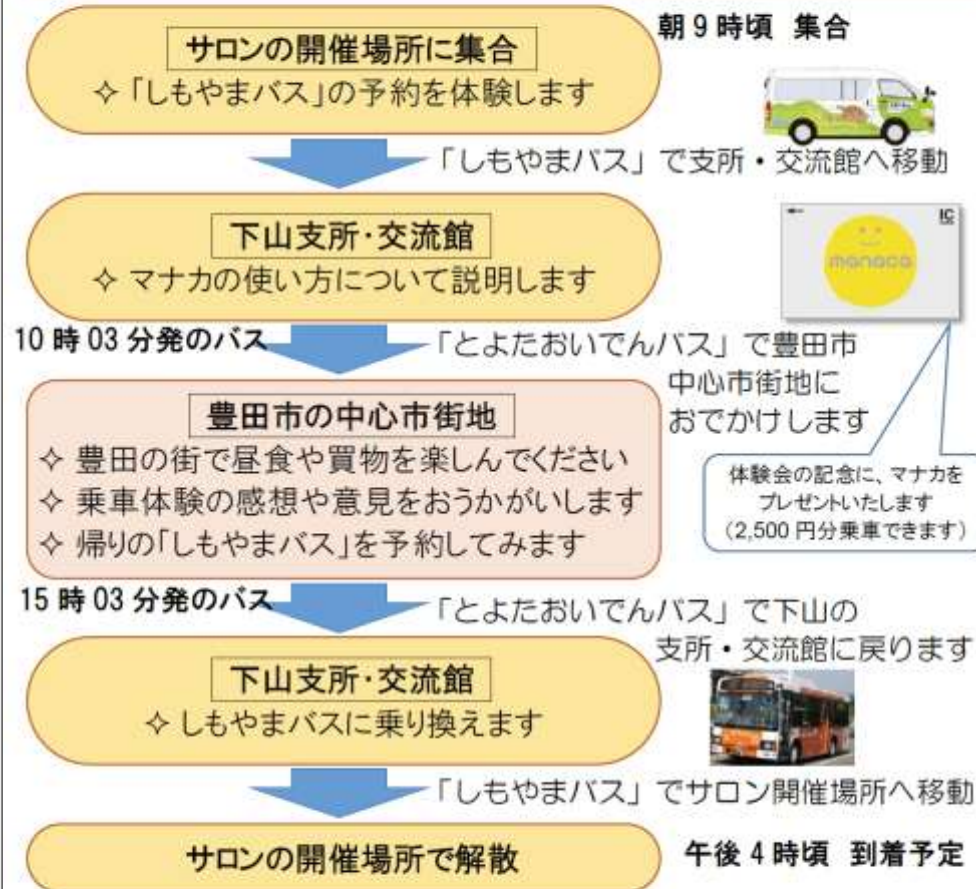
体験乗車会の内容

- 出発前の説明
 - ・ 地域バス予約方法解説と練習
 - ・ IC乗車券利用方法説明
- 中心市街地でのヒアリング
 - ・ 基本情報収集
 - ・ バス乗車会の感想と意向
 - ・ 運転免許返納に関する意識
 - ・ 道中アテンドしながら会話記録
- おでかけ目的の創出
 - ・ 豊田まちづくり(株)等と連携し、中心市街地での娯楽提供(能楽堂、図書館、映画館等の見学など)



とよたおいでんバス・しもやまバス 体験試乗会のご案内

ICカード乗車券 manaca (マナカ) を使って 豊田の街に出かけてみませんか？



- 開催予定日は 10 月～12 月の水曜日と木曜日です。(別紙の申込書参照)
- サロンでの参加を募集します。参加を希望されるサロン代表者は、社会福祉協議会下山支所に申込書(別紙)を提出してください。(FAX:0565-90-2419 担当:鈴木)
- 問合せ先: 豊田都市交通研究所(電話 0565-31-7543 担当:山崎)
- 後日、主催者から改めてご連絡し、日程調整等いたします。
(主催:豊田市役所交通政策課、豊田工業高等専門学校、豊田都市交通研究所)

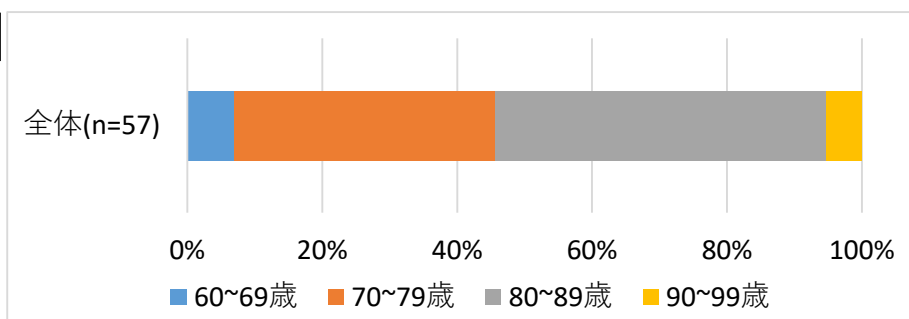
体験乗車会の開催実績

- 6回の乗車会を開催し57名が参加(6サロン+クチコミによるグループ)

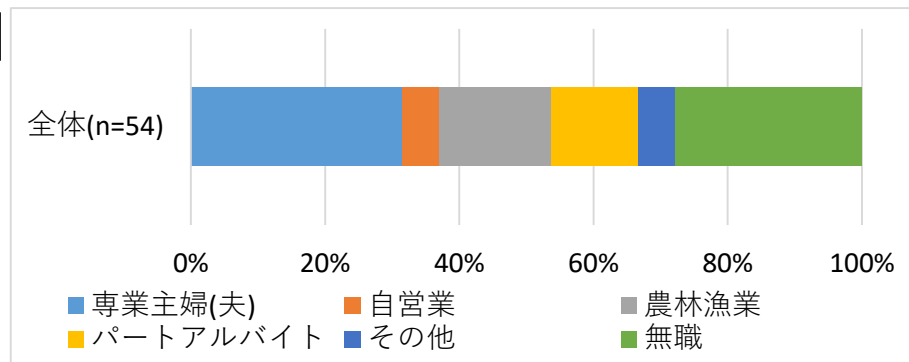
回	開催日	サロン名	地区	人数	地域バス	基幹バス	市街地活動
1	11月7日(木)	ひまわり会	羽布町	10	乗場608 行き 9:20 帰り 16:00	支 所10:03 豊田市15:03	自由行動
2	11月13日(水)	はなし会	花沢4組	5	-	切二木10:12 豊田市15:03	・イオンシネマ見学
	11月13日(水)	友友クラブ	大沼3組	4	-	支 所10:03 豊田市15:03	・自由行動(2名) ・イオンシネマ見学(2名)
3	12月5日(木)	すみれ会	大沼2組	13	-	大 沼10:01 豊田市15:03	自由行動
4	12月10日(火)	花二会	花沢2組	6	参加者自身で 手配	支 所10:03 豊田市15:03	自由行動
5	12月19日(木)	※過日の参加者からの 声かけで、サロンの枠 を越えて参加		11	-	支 所10:03 豊田市15:03	自由行動
6	1月9日(木)	我まま会	蘭町	8	乗場303 行き 9:30 帰り 16:00	支 所10:03 豊田市15:03	自由行動

参加者の属性(年齢、職業、家族構成)

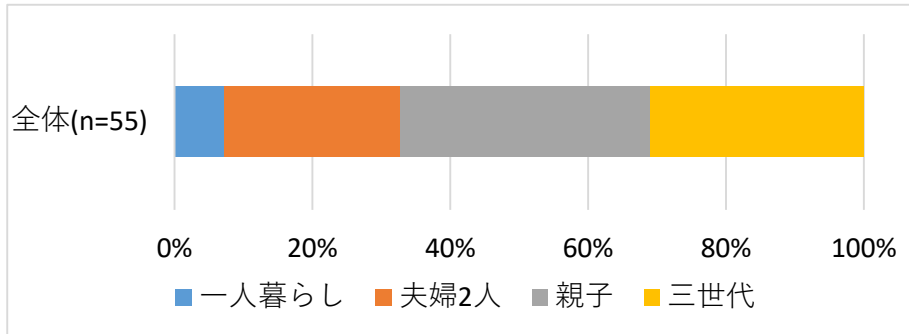
【年齢】



【職業】



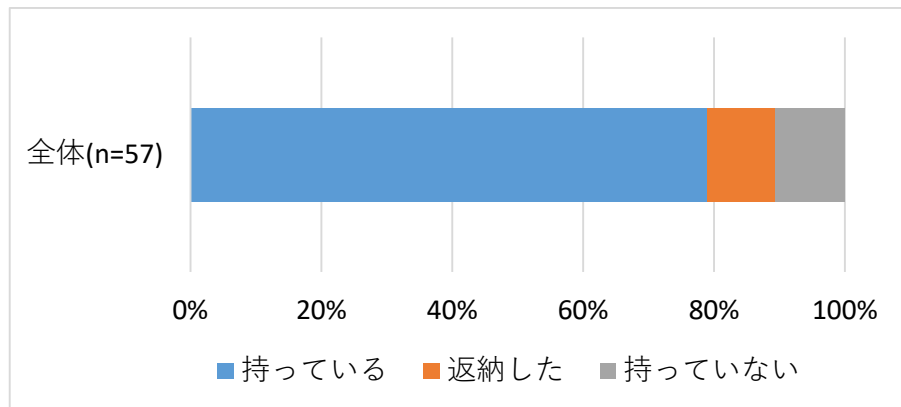
【家族】



- 80歳代が最も多く49%を占めている。次いで70歳代が39%であった。
- 職業は「専業主婦」「無職」が6割弱
- 家族構成は子や孫と同居が67%
- なお、参加者57名のうち男性は2名

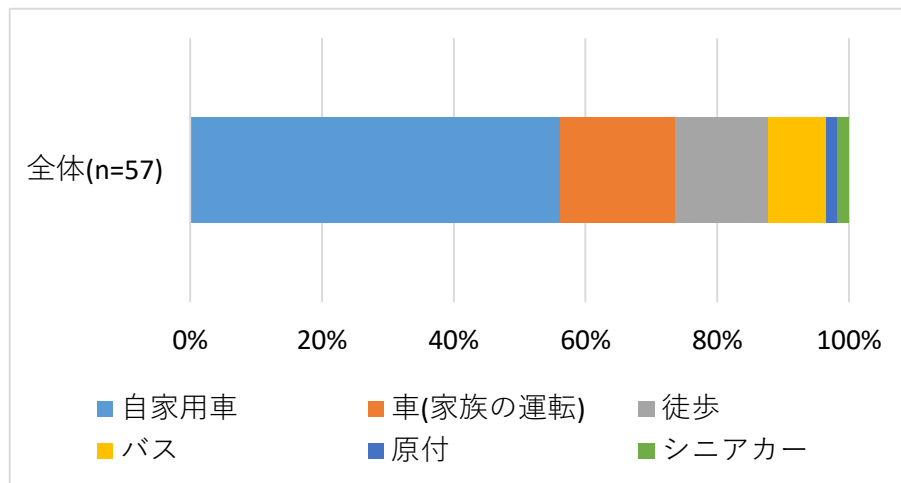
参加者の属性(運転免許と外出行動)

【運転免許の有無】

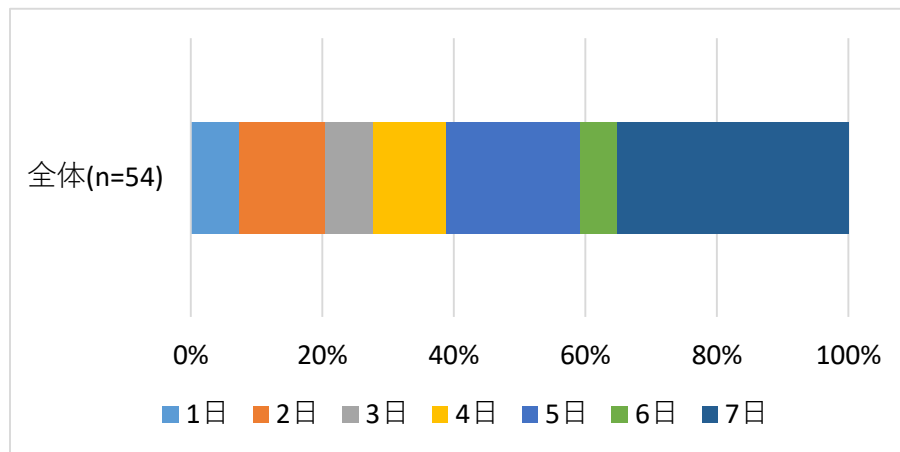


- 8割が運転免許所有。返納者は6名。
- 外出頻度は35%が週7日、6割以上が5日以上外出している。
- 手段は自家用車(運転)が6割弱。

【主な交通手段】



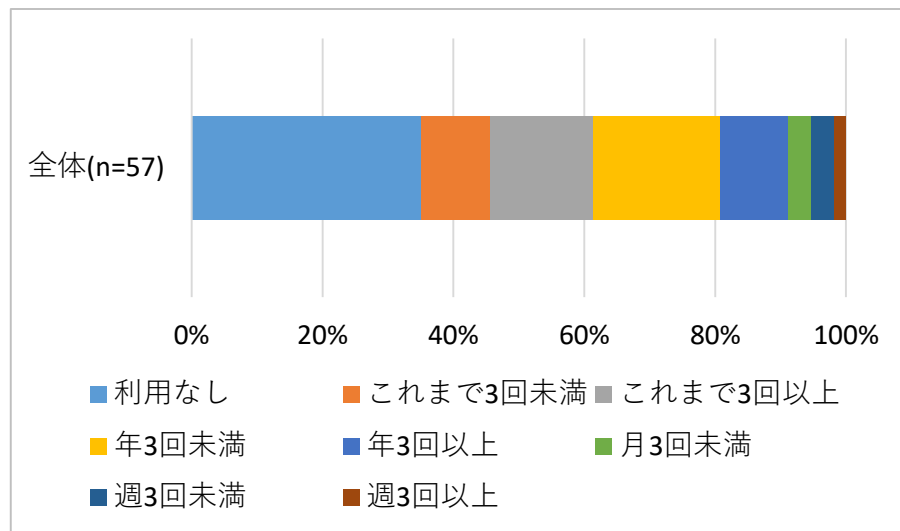
【外出頻度】



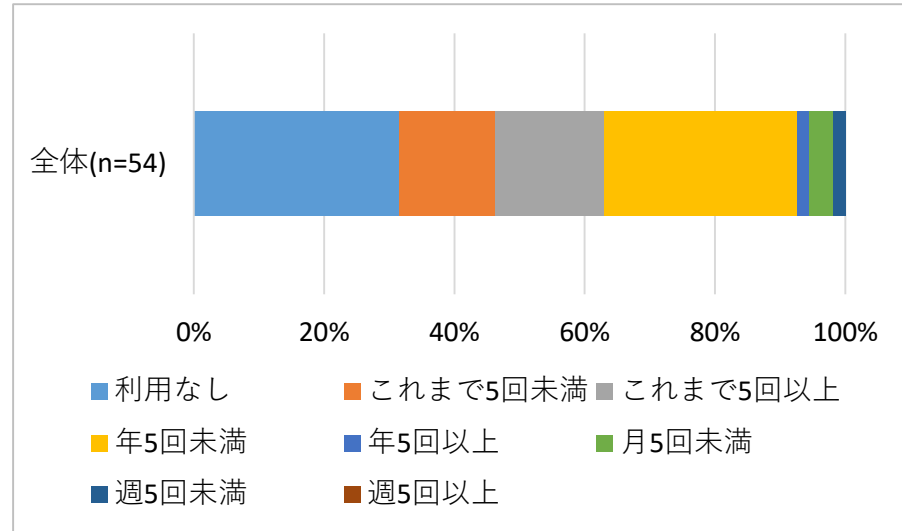
参加者のバス利用状況と環境

- 35%が地域バス(しもやまバス)を利用したことがない。
- 基幹バス(下山・豊田線)を利用したことがない人は31%であった。

【地域バス(しもやまバス)】

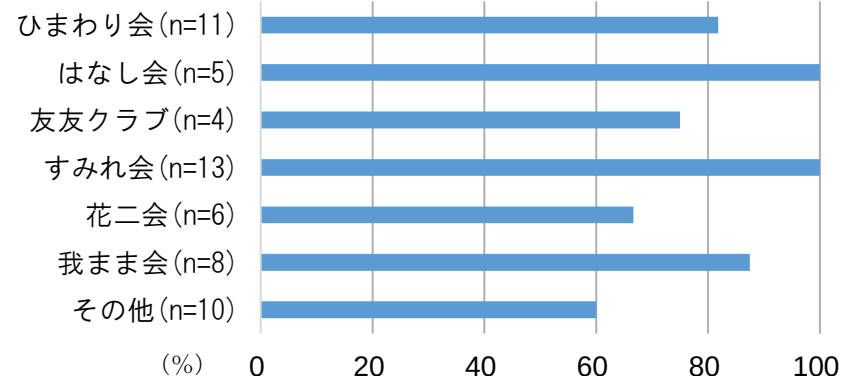


【基幹バス(下山・豊田線)】



【地域バス乗降場 300m 内居住者割合】

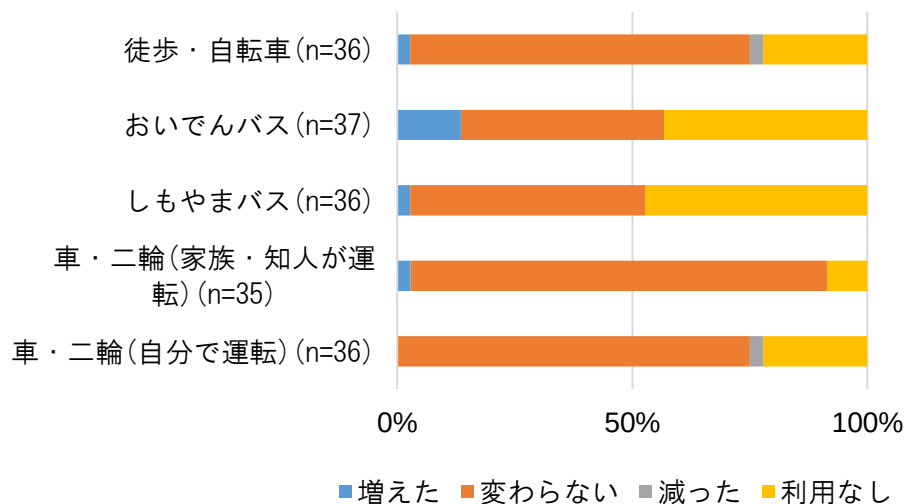
- 幹線道路(R301号等)沿線以外は基幹バスを使いにくい状況。
- 面的にカバーする地域バスでもカバーしきれない集落もある。



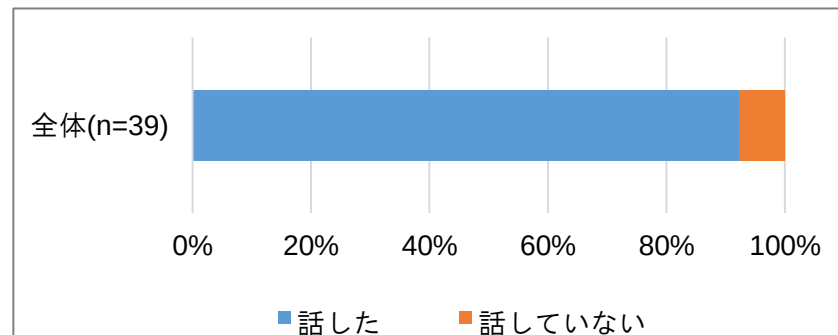
事後調査の結果

- 乗車会から1～2ヶ月後に事後調査を実施（郵送配布回収では困難と判断し、サロンを訪問し面着で調査票に記入）。
- 乗車会後のバス利用は、地域バスは従来からの利用者のみ。基幹バスは2名が新規に利用している。
- 外出行動の変化は即座かつ顕著には現れない。

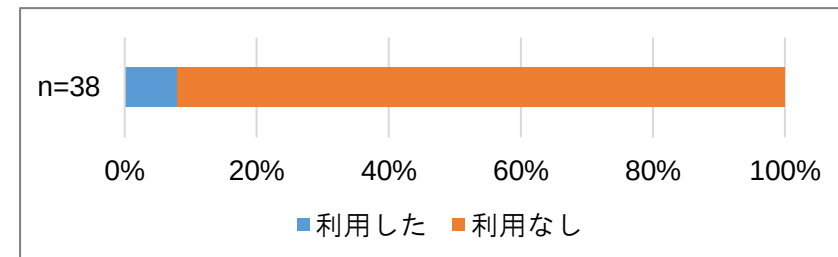
乗車会後の外出行動の変化



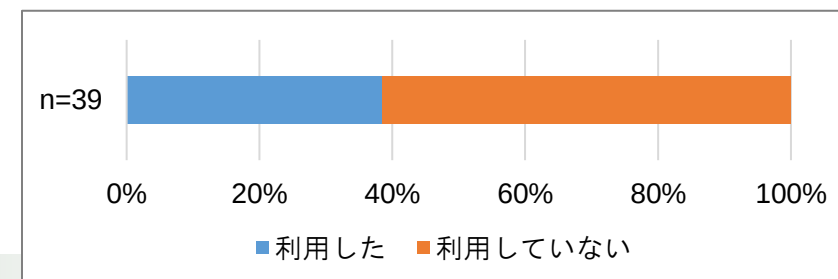
乗車会参加経験を他の人に話した？



乗車会後に地域バスを利用した？



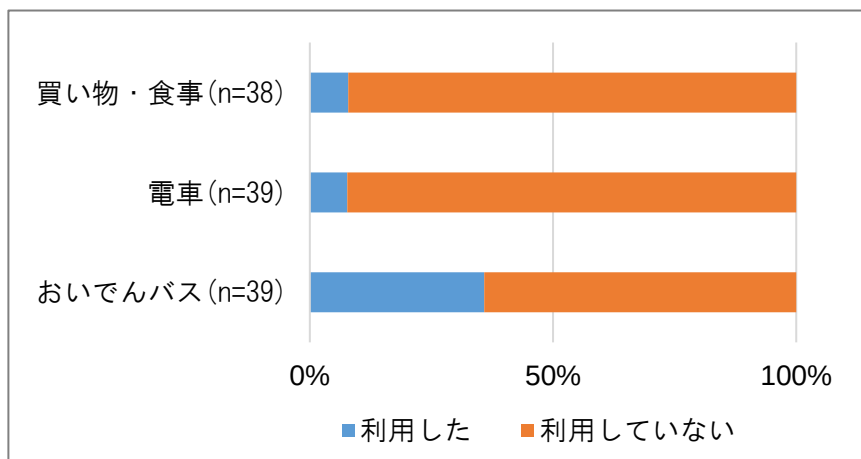
乗車会後に基幹バスを利用した？



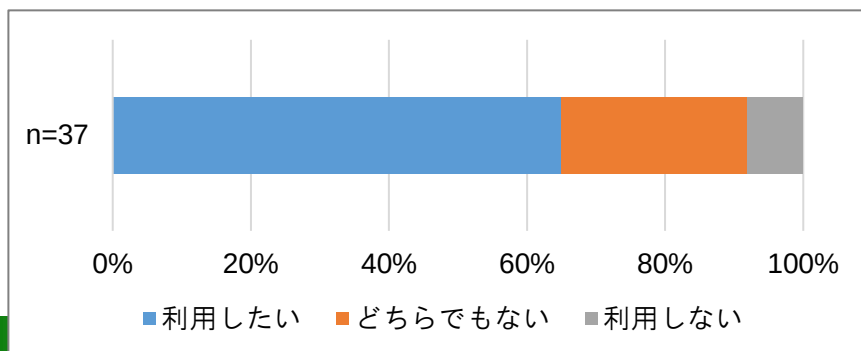
IC乗車券(manaca)利用の状況と意識

- IC乗車券の利点を認識しつつも、利用していない人が多数。
⇒「一人では使えない、使いにくい」という発言が多く聞かれた。
- 今後の利用意向は「利用したい」が6割超であった。

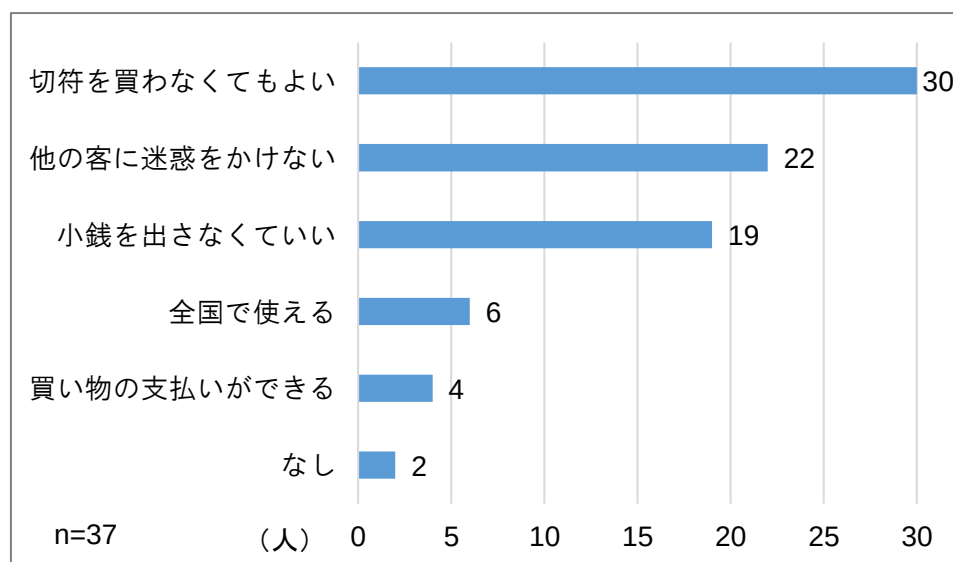
■乗車会後に manaca を利用したか？



■今後の manaca の利用意向



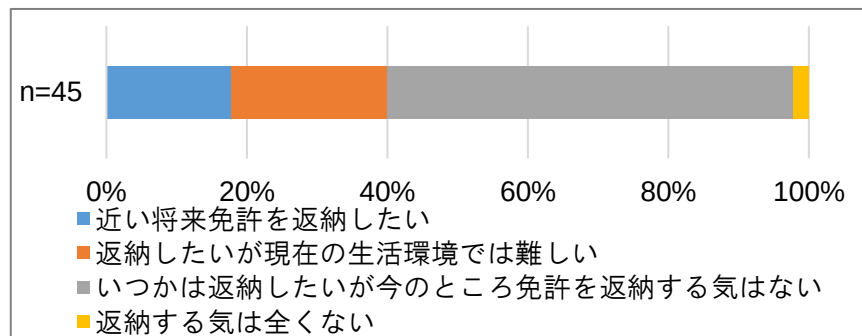
■IC乗車券(manaca) の評価



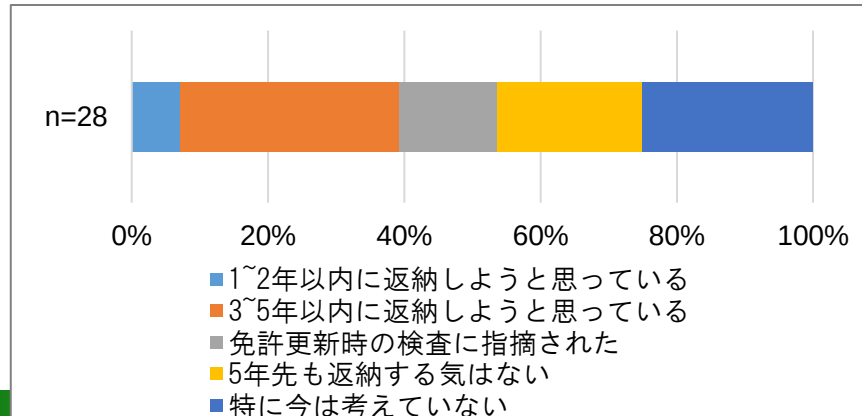
自家用車利用に関する意識（免許返納意向）

- 返納意向のある人は事前調査では20%程度。具体的な時期までたずねた事後調査では40%程度。
- 家族（特に子）からの進言が効果的である可能性が示唆された。

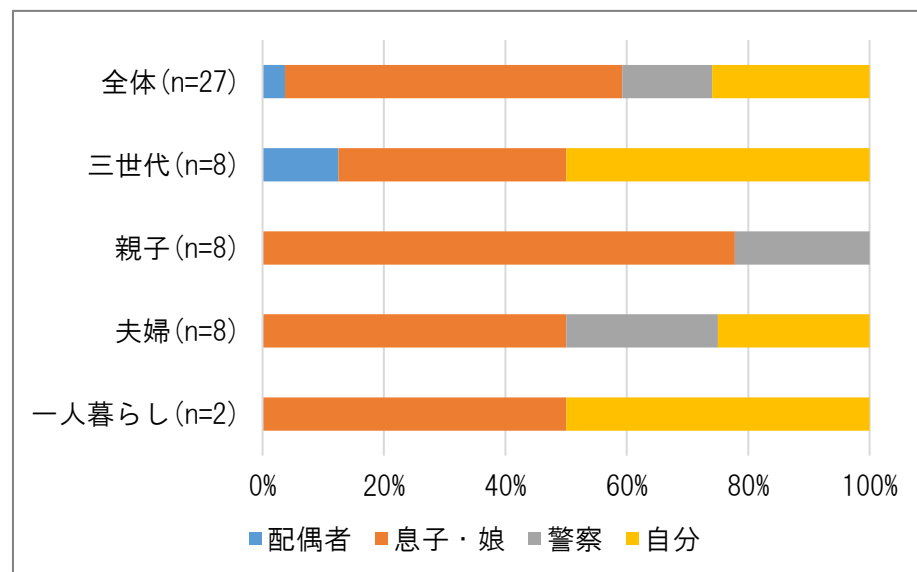
■ 免許返納の意向（事前調査）



■ 免許返納の具体的な時期（事後調査）



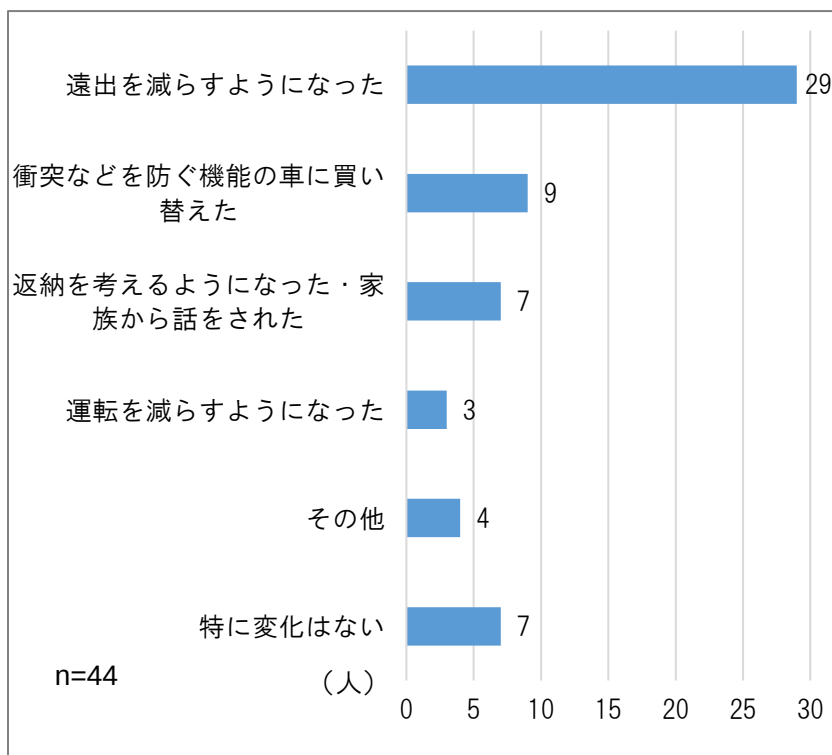
■ 誰に言われたら免許返納する？



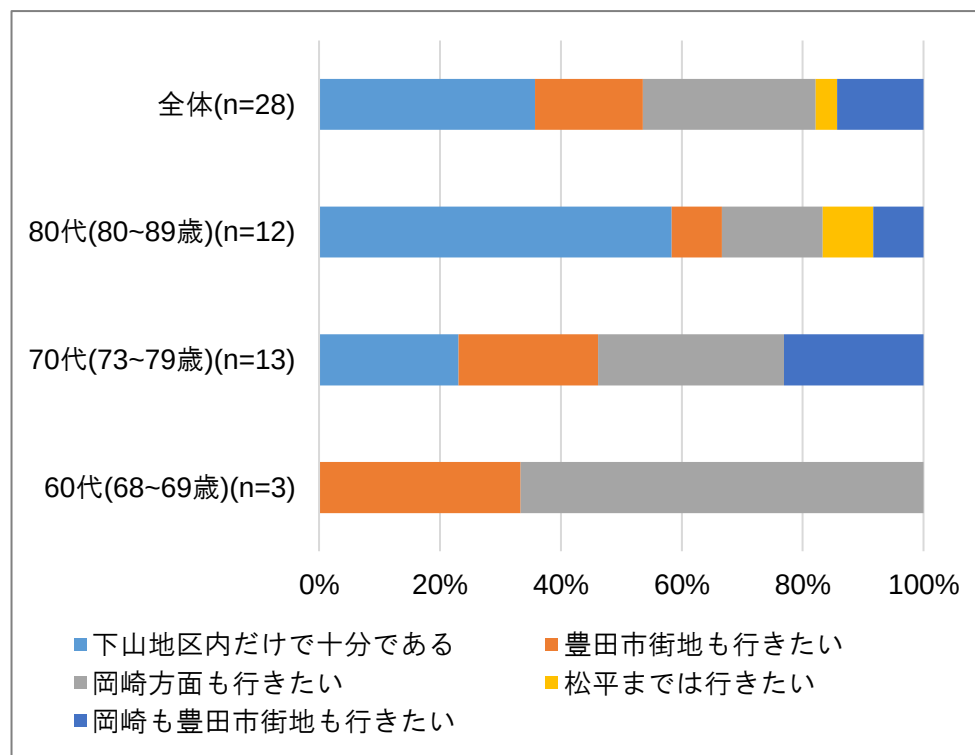
自家用車利用に関する意識（事故報道による行動変容）

- 高齢者による交通事故多発の報道により7割弱の人が「遠出を減らすようになった」と回答。ADAS搭載車両への買換もみられる。
- 事後調査で地域限定運転の可能性を探ったところ、4割弱の人が「下山地区内だけの運転で十分」と回答。

■ 高齢者事故の報道による行動変化



■ 地域限定運転の可能性



体験乗車MMのまとめ

(1) バス利用促進の効果と課題

- IC乗車券の利便性は認めつつも、単独で利用することに自信が無い
ため、利用促進につながっていない。
- 少数ではあるが、体験乗車会をきっかけにmanacaを使ってバス利用
をし始めた人も存在している。⇒ 活動に対する個人的な性格に因る
ところが大きいか？

(2) 自動車運転に関する課題

- 高齢者事故に関する報道による行動変化は少なからず見られる。
- 家族(特に子ら)の進言が行動変容を促す効果が高いと推察される。
⇒ 今後、家族ぐるみのMM効果を検証
- 高齢者(特に80代以上)にとっては、生活圏内に限定した運転で十
分であるという意向を確認(逆に、生活圏内の運転は不可欠な状況
ではある)。

(3) その他(地域コミュニティの役割など)

- クチコミによる波及効果を確認。
- キーパーソンの高齢者のリードにより地域全体で交通行動を考え
ることの効果に期待。

ふと、「終活」という言葉が頭をよぎった・・・

- 地方都市において「自家用車依存の生活を送ってきた世代」の高齢化が急速に進む中、高齢者の「安全」な「モビリティ確保」が課題
- 高齢者自身の「終活」と連動した交通行動プランを考えることの可能性を探りたい



- 下山地域での高齢者MMや既往資料から得られた知見
 - ⇒ 高齢者の地域活動の場「ふれあいサロン」が「生きがい創出」に機能
 - ⇒ 友人らとの「楽しい経験」の提供が行動変容を効果的に促す
 - ⇒ 家族(特に子)からの進言が効果的である可能性が示唆された
 - ⇒ 補償運転に関する行動変容メニューも必要(運転マイルールづくり)
 - ⇒ 男性高齢者の外出行動やコミュニティ活動への参加促進という課題への対応(MMのターゲットとして見据える)



- 男性の前期高齢者を対象として「家族あるいは地域ぐるみで取組む終活(今後の生活と交通)を考慮したMM」の試行に取組み、その効果を検証し、豊田市の交通政策展開に繋げたい

「終活」とは

(1)「終活」とは

- しゅう-かつ[-クワツ]【終活】
《「就活」のもじり。「終末活動」の略か》人生の終末を迎えるにあたり、延命治療や介護、葬儀、相続などについての希望をまとめ、準備を整えること。

出典：デジタル大辞泉（小学館）

(2) 終活という概念の発祥

- 2009年 『週刊朝日』に特集連載
- 2012年 「新語・流行語大賞」Top10選出

(3) 社会への拡がりと行政関与

- 2012年 北海道で池田智裕氏が「エンディング総合支援サポートの会」発足⇒「一般社団法人 終活ジャパン」
- 札幌市は上記法人を「地域安全サポーターズ」に位置付け
- 現在では横須賀市、千葉市など、多数の自治体が「エンディングプラン・サポート事業」等を展開

一般社団法人
終活ジャパン協会 高齢者と家族の暮らしをワンストップサポート



シニアの困り事をワンストップで解決します

スマイルつなぐプロジェクトが全道に広がっています!!

私たち「終活ジャパン」は、生き樂み、そして生き延びることを目指し、さまざまな地域貢献活動の取り組みを終活を通じて行っています。

高齢者住宅のお住替サポート
お客様の希望や生活状況をお伺いして有料老人ホームやサービス付高齢者向け住宅をお手配しております。

身元保証支援サポート
老人ホームや高齢者住宅への入居時身元保証入になります。

ハートフルサポート
(移行型任意後見契約)
一人暮らしなので緊急（火災など）時に病院に駆けつけてくれる人がいない。もし自分が認知症を発症した時、財産を守ってくれる人がいない家族が自分の通いで休めない心配。希望に応じて行政書士、司法書士、弁護士等の専門家が金融、財産の管理や法律面の手助けをいたします。

生活支援サポート
日々の暮らしの不安やご要望を直接、サポートし、安心して暮らせる生活サービスをご提供いたします。
介護保険では対応できない身の回りのお世話をご家族に代わって支援いたします。

エンディングサポート
(死後事務任意契約)
エンディングサポートは死後の応急的な事務を行うものです。危篤・計画的に駆けつけ、親族等関係者へ連絡します。遺主として葬儀を執り行い、ご希望通りの葬儀を行います。

出典 (一社)終活ジャパン Webサイト
<https://www.shukatsu-jan.com/>

豊田市での「終活」に関連した取組み

- 市民相談課：平成29年度から終活セミナー「おいじたく始めませんか？」開催
- 成年後見人支援センター：エンディングノートを製作し、サロン等で講座開催

おいじたく 終活セミナー 2020
始めませんか？

令和2年 **1月12日** 日 13:00～
豊田産業文化センター4F 交流室
[豊田市小坂本町 1-25]

参加無料
定員 150名

あなたの終活/
元気なうちにやって
おきませんか？

お金のホントを
知って楽しい老後

上原 房枝氏 **岡 光宏氏**

お申込み記入欄

団体名	
お名前(敬称の場合は代表者名)	住所
参加人数	電話(携帯)

主催：豊田市 問合せ・申込み：市民相談課 TEL:0565-34-6626 FAX:0565-31-8252

ちょっと
暗い？

—あなたの身近な相談窓口—

お申し込みは、お住まいの市町村に所属する相談窓口へ
豊田市民相談センター

お申し込みは、お住まいの市町村に所属する相談窓口へ

相談窓口	電話番号	相談時間

相談窓口の所在地と連絡先
豊田市民所 福祉総合相談課 (0565)34-6791

お申し込みは、お住まいの市町村に所属する相談窓口へ
豊田市成年後見支援センター
お申し込みは、お住まいの市町村に所属する相談窓口へ
お申し込みは、お住まいの市町村に所属する相談窓口へ

はじめに

このノートは「自分はどうしたい」「こうして生きていきたい」という希望を記録するものです。認知症などにより十分に意思表示ができなくなったとき、自分の意思を相手に対して伝える参考材料として利用することができます。

他み慣れた地域社会で、ご自身が自分らしく生きることの平明けになることを願って、このノートを作成いたしました。

- 人生を振り返り、わたしを気づけなします。
- 貴様の暮らしを記録し、もしものときの希望を表明します。

目次

- はじめに 2
- 私のこと 3
- 私の好きなもの 4
- 私の健康状態 5
- 病気について 6
- 介護が必要になったら 7
- 認知症等になったら 8
- 葬儀のこと 9
- お墓のこと 10
- 遺言について 11
- 渡したいもの、その後のもの 12
- 預貯金等の資産 13
- 借入金・保険等 14
- もしもの時の連絡先 15
- 大切な人へのメッセージ 16
- あなたの身近な相談窓口 18

今年度、実施を予定しているMMのイメージ

コンセプト・前面に押し出すキーワード

- 明るい MM : 「クルマに代わる楽しみ」「移動とのつきあい方」
- 地域に貢献 : 「地域への関わり」「積極的な地域活動参加」
- 家族の安心 : 「子からの進言」「安全な移動」

MMツールの構成

家族への情報提供ツール

- 子世代を対象
- 高齢ドライバーの問題や課題
- 高齢者への説得の方法

高齢者への情報提供ツール

- 高齢者（当人）を対象
- 高齢ドライバーの問題や課題
- 終活と絡めた交通行動計画書

社会福祉協議会・地域会議などが窓口となり、参加世帯を募る

家族へのMM

- 前期高齢者の親を持つ「子」世代を対象に、親の交通行動変容を促すための情報を提供

家族による高齢者MM

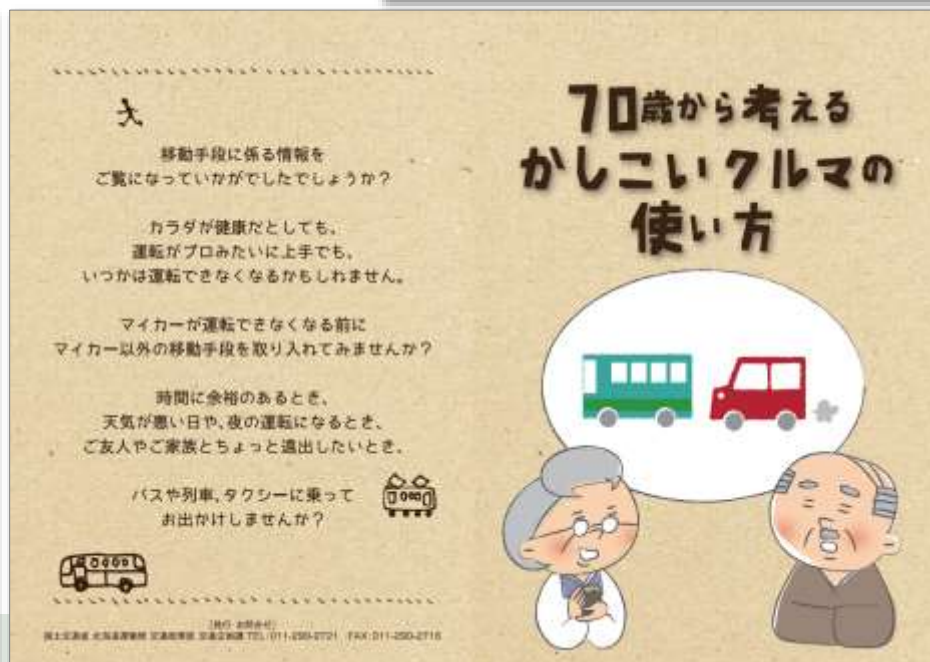
- 子世代の家族が主体となって、後期高齢手前（70代前半）の親に対して情報提供
- 親と共に交通行動を含めた生活全般の今後について計画

MMにより目指す行動変容

- 積極的な地域コミュニティ活動や「クルマに代わる楽しみ」を見出させる
- 「免許返納」「公共交通利用」「ADAS装備車買換え」「補償運転実践」を促す

【参考】家族ぐるみのMM先行事例 (北海道運輸局・釧路市)

- 講座、フォーラム開催
- 高齢者向けレクレーション開催
- WSとアンケート調査に基づき「家族向け」「高齢者向け」の動機付け冊子を製作
⇒他市町村に展開



みなさんと議論したいこと

(1) 新たな技術による「道具」は高齢者の行動を変えるか？

- ICカード乗車券やスマートフォンなどの携帯端末、電子機器は高齢者に馴染むことができ、行動を変えるのか？

(2) 「終活」という言葉は使うべきではないのか？

- 研究所内(研究に助言頂いている関係学識者含む)においても、この言葉に対して非常に否定的。やはりネガティブな印象か？

(3) 誰の言葉が高齢者の心を掴む？

- 今回の研究では「息子や娘」からの進言に耳を傾けそうな結果
- 他研究で「孫の言葉、依頼に弱い」という傾向も

(4) 地域は高齢者の交通行動をどうバックアップする？

- 自治区で独居高齢者の居住場所マップを作成し、近隣で見守ろう、という取り組みは「逆に防犯上よろしくない」という意見で断念した経験
- 70代の世話人・コミュニティのリーダーが80～90代の高齢者を支えている現状は、近々破綻するか？

みなさんの**地域活動**や**家族**との関わりなど**実体験**から、ご意見ください。

○記載方法

・質問、コメント

⇒回答、応答

※ご質問頂いた内容はほぼ原文を掲載しておりますが、一部、個人名や企業名が分かる箇所については添削・修正しております。ご了承下さい。

・議論したいことのスライドの「(1) 新たな技術による「道具」は高齢者の行動を変えるか？」について、なじまないと思います。行動を変えることはないと思います。

⇒現在すでに後期高齢者となっている方々は、スマートホンや IC カードを使うことに抵抗がある、使えない、という人も多くいらっしゃることを今回の体験試乗会で実感しました。ただ、70 代前半の方など、今後後期高齢者となっていく年代の方々はそういった「道具」を使い慣れていて、さらに新たなものが出てきた時に受け入れやすいようにも感じています。

・議論したいことのスライドの「(2) 「終活」という言葉は使うべきではないのか」について、私はネガティブなイメージはもちません。逆に、17 ページで使われている「前期高齢者」に疑問を感じます。現在、「前期高齢者」は65歳から74歳、「後期高齢者」は75歳からとなっています。数年前、あるボランティアの集まりで後期高齢者の話が出て、俺のことを言っているのかと冷静に話をされた方がおられ、差別、パワハラではないかという意見などが出されました。私は今年、67歳、ああ「前期高齢者」なのだと実感させられました。国は、70歳過ぎても働けという中でつじつまがあわないと思いませんか。人生100年時代、「前期高齢者」、「後期高齢者」という言葉を少し考えてみてはと思います。

⇒なるほど！「終活」という行動・行為を指す言葉にはネガティブなイメージは無いものの、「高齢者」という言葉は「ある種の状況（ここでは年齢）にあてはまる人を一括りにまとめて指し示す」ものであるもので、そこに差別的なイメージが存在する、ということでしょうか。おっしゃるとおり、「前期高齢者」に該当する年代の方々も働いて経済に貢献しなければならない現状では、年代・世代を示す言葉や括り方を再考し、社会活動の実状に即した表現にする必要があるかもしれませんね。また、高齢者という呼称を受け入れられるかどうか、個人の性格・気質・経験に因る部分もあるのかもしれません。参考になりました。

・議論したいことのスライドの「(3) 誰の言葉が高齢者の心を掴む？」について、孫の言葉は非常に大きな力を持っています。私の父の場合、「あの親父」がというくらい、孫に嫌われないようになんとか取り入りとして涙ぐましくしているのを何度も見ています。「土方殺すに刃物はいらぬ・・・」という言葉がありますが、「爺殺すに刃物はいらぬ、孫の一言・・・」ではないでしょうか。

⇒やはり孫の言葉が効きますか。実体験からの意見、ありがとうございます。今年度実施予定のモビリティ・マネジメントにおいて、参考にさせていただきます。地域のコミュニティ活動として、高齢者クラブと子ども会の交流のような取組みをしている自治区もあるようです。地域連携 MM の手法として、子供ら（孫世代）から祖父母（高齢世代）への進言も検討の余地がありますね。

- ・議論したいことのスライドの「(4) 地域は高齢者の交通行動をどうバックアップする？」について、民生委員は、厚生労働大臣からの委嘱、都道府県知事の推薦を受け、業務を行うとなっています。実際は、市長が区長に人選を依頼し、区長が推薦し、市に報告、県に報告しています。民生委員は、必要となれば、一人暮らしの高齢者のプライベートな部分に踏み込んで構わないと厚生労働大臣から権限を与えられています。本来ならば、民生委員は厚生労働大臣より直接、権限を与えられているものなのですが、民生委員になる過程で「地縁による団体」の区長に選ばれているため、権限を発揮できない状態となっています。このことが解決しない限り、この問題は解決しません。

⇒実態として、自治区長の監督の下に民生委員が活動している状態、ということなのでしょうか？地域によって違いはあるかもしれませんが、ケアせねばならない高齢者数に対して、民生・児童委員の人数が不足しているようにも感じています。地区によっては、なんでもかんでも特定のキーパーソンの人に集中してしまい、代理となる方、後継者不在となってしまうケースもありそうですよね。

- ・下山地区の地域限定運転についての意向調査で豊田市街地よりも岡崎への意識が大きいのはバス路線が岡崎と結びついていた歴史(経緯)と関係はあるのでしょうか？かなり興味深い結果です。何のために行くのかも調査されたのでしょうか。

⇒おっしゃるとおり、かつて豊田おいでんバスが無かった頃は豊田市方面に行くための公共交通は存在せず、下山はバス路線がある岡崎との結びつきが強かったためだと考えられます。また、現在でも岡崎まで行けば都市間の幹線交通である名鉄本線や JR 東海道線を利用できるため、岡崎は名古屋方面や県外へ移動するためのハブとして位置付けられているようです。体験乗車会の参加者で、東京に住まわれている娘さんのところによく出かけると言われていた方はクルマで東岡崎まで出て、名鉄で名古屋や豊橋に行かれるとのことでした。豊田市駅経由よりも所要時間がかからないということでしょう。ですから、豊田市駅方面（豊田市中心市街地）を訪れるのは、そこに何らかの用事があるときのみ、とのことでした。

- ・IC 乗車券を契機に公共交通によるお出かけ促進を図るのに「しもやまバス」には IC 乗車券が使えないのが残念です。乗継利用に限定したわかりやすい仕掛け(接続モデルをパターン化して選択するなど)と乗継運賃をセットにしてはどうでしょうか。

⇒なるほど！例えば、しもやまバスからおいでんバスに乗り継いで、豊田市駅まで行く場合に割引とか、あるいは中心市街地の商店街と連携して、何かサービス券など付加価値をセットするとか、ありえますね（ただしその場合、manaca での支払は対応できない？）。また、研究所では MaaS に関する自主研究も取り組んでいますが「市内のさまざまな交通サービス定額で利用できる」ような地域社会を思い描いています。そのためには行政と交通事業者が一体となって地域交通の運営に取り組む必要がありますよね。3 月に閣議決定された活性化再生法や独禁法の改正法案が施行され、地域の公共交通運営に効果を発揮してくれるといいのですが・・・。

- ・IC カードでお出かけが完結できれば、一度覚えたらお出かけのハードルが一気に下がるのでは？単発的な実証に終わらせず息長く粘り強く「お出かけ会」を企画して使い方、出かけ方を覚えてもらう取り組みをどれだけ続けたら利用者が増えるかにも興味があります

⇒本年度も豊田市の事業として予定されており、豊田高専と共同での実施を計画しています。しかしこのコロナ禍では、慎重に計画・対応せねば、という状況です。あと、対象地域を市内のさまざまな場所・路線に拡大していくことや、別の視点からの試乗会メニューなども検討の余地があります。

- ・体験乗車会の参加者クチコミでサロンの枠を越えて乗車会ができたのは大変に良い流れだと思います。コロナ終息で改めてお出かけ会を設定したらどのような反応があるのか興味深いです

⇒ありがとうございます。豊田市や周辺市町村の情報から、4月のバス利用者はだいたい半減しているような印象を持ちました。逆に言えば、半数の人は感染のリスクがありながらもバスを利用していたということですが、その人たちがどのような人なのか、移動しなければならない状況にあり、交通手段はバスしかない「キャプティブ層」であるのか、興味があるところです。ある自治体の担当者がコミュニティバスに乗車し状況を確認したところ、普段どおりの買い物に出かけるためにバスに乗車したという高齢者がいたとのことでした。

- ・乗車会への参加者が独居者が僅かな事に驚きました。独居者はコミュニティに参加できているのでしょうか？それとも同居家族が居ることで外出に対する意識に意欲がますのでしょうか？

⇒核家族化が進む中で、下山は「旧き良きニッポンの家族」の姿が残っているかもしれません。少なくとも乗車会に参加している方は、サロンというコミュニティ活動に参加されているわけですが、問題はこういう場に出てこれない方々がどれくらい存在するのか、というところですね。

- ・IC 乗車券の利便性を知る体験する回数を増やす事が成功体験として今後の利用意向に反映してくるのではないのでしょうか。

⇒そのように考えています。1回の乗車会では自分でうまく使えるかどうか不安だから、と、クチコミ参加者の回に「ついてきた」方が2名いらっしゃいました。また、体験会後に、おさらいとして自分でバスに乗ってみた、という方もいました（別のサロンの体験会時にたまたま遭遇しました）。しかし、行政の調査や研究で、何度も同じ人を対象に体験会を開催できないので、地域で支える仕組みを構築する必要があるように思います。

- ・昨日、お隣の額田支所に立ち寄ったら「エンディングノート」が多くのパフレットと一緒に置いてありましたが、公共の場で“ご自由に”というところには違和感を覚えました。どのようにアプローチしたら良いのかは正直なところよくわかりません。

⇒確かに「ご自由に」では、なかなか手に取りづらいというか、エンディングノートに何をどう書けばいいのか、わからないかもしれませんね。なぜそれが必要なのか、面着での説明が必要に思います。そこを家族ぐるみ、地域ぐるみでアプローチしていくべきだと考えていますが・・・。

- ・81歳の母親(同居)が腰骨の圧迫骨折で1ヶ月半クルマの運転を医師から止められていますが、クルマに乗りたいとの意欲は現在も非常に強いです。クルマに乗って友達の所に行く、買い物に出かけ好きなものを買ってするのが楽しみのようですが、自分の運転が目的であり、その母親は70歳ぐらいから娘(私の妹)や孫たちとのコミュニケーションツールとして携帯・スマホとそれなりに使いこなしています。わからない事があればそれを孫娘に教えてもらうのも、使い続けている一つの支えかもしれません。写真を撮ってメールで送ることはもちろん、時々検索サイトで調べることもあるみたいです。頑張って覚えて使うことで、それ以上の楽しみがあるならば使えるのでは? どうやって一歩を踏み出せるかが勝負でしょう。

⇒御母上のようなポジティブな高齢者は一定数いらっしゃいますよね。素晴らしいことです。やはり同様に「バスを使うこと」も「ICカードを使いこなすこと」も、その先にある「楽しみ」がモチベーションとして重要だと考えています。高齢者のクルマ利用抑制(免許返納など)に関しても「クルマに代わる楽しみ」を見出してもらうようなMMを検討しています。

- ・終活という言葉の是非はよくわかりませんが、子供としては親がエンディングノートを残してくれていればありがたいと思います。一方でそのような行動を強いるにはデリケートな面も当然含まれるものだろうから憚られます

⇒私もほぼ同世代ですので、ぼちぼち親と今後のことを話し合う機会を持たねばならないのですが、自分のことにあてはめてみると確かにわざわざ「終活」という造語を使う必要もない、もしも親がこの言葉にネガティブな印象を持っていたら使うべきではない、という気もしています。

- ・早く懇親会ができる日が戻ることを強く期待します！

⇒いつもありがとうございます。これまでに経験したことのないこの状況から完全に以前と同じ状況に戻ることができるのか、「新しい生活様式」は新型コロナの感染問題が完全収束した後も、さらなる新種の病原に備えて続けるべきなのか、密な環境を作り出さない都市構造・社会構造に変容していくべきなのか、またそれが可能なのか、現状では読み切れない要素が山積みの中で、交通に携わる者は何を考え、どう行動したらいいのか。所内でも議論を深めようとしています。改めてみなさまからも意見をお聞かせ頂く機会を設けたいと考えています。今後ともよろしくお願いいたします。